

2025年度 学生生活実態調査 集計結果

学年

	在学数	回答者数	回収率
1学年	68	61	89.7%
2学年	68	63	92.6%
3学年	97	70	72.2%
4学年	104	80	76.9%
全体	337	274	81.3%

性別

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
1. 男	3	4.9%	15	23.8%	12	17.1%	4	5.0%	34	12.4%
2. 女	58	95.1%	47	74.6%	58	82.9%	75	93.8%	238	86.9%
3. その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
4. 回答しない	0	0.0%	1	1.6%	0	0.0%	1	1.3%	2	0.7%
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

問1. 主な通学方法

徒歩通学の割合は58.7%で、R6年度(56.7%)からほぼ横ばいで推移している。一方、自動車利用は31.4%で前年(31.5%)と変化がなく、引き続き主要な通学手段である。自転車通学は2.2%で微減し、バス・JR・送迎はいずれも数%程度にとどまった。全体として、徒歩・自動車による通学が定着しており、通学形態の大きな変化は見られない。

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
1. バス	3	4.9%	1	1.6%	4	5.7%	4	5.0%	12	4.4%
2. JR	1	1.6%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.7%
3. 自動車	14	23.0%	27	42.9%	22	31.4%	23	28.8%	86	31.4%
4. バイク	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. 自転車	0	0.0%	3	4.8%	0	0.0%	3	3.8%	6	2.2%
6. 徒歩	40	65.6%	30	47.6%	42	60.0%	49	61.3%	161	58.7%
7. 送迎	3	4.9%	1	1.6%	2	2.9%	1	1.3%	7	2.6%
8. その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

問2. 自動車・バイク・自転車の利用状況(複数選択)

※回答者数に対する割合

自動車の利用は62.0%で、R6年度(61.8%)からほぼ同水準を維持した。バイク利用は1.5%で減少(R6:2.5%)、自転車利用は33.2%とやや増加(R6:31.1%)した。運転機会のない学生は21.2%で前年(21.8%)と同程度であり、全体としては安定傾向にある。依然として自動車利用が主流であり、地域特性を反映した結果となっている。

	1学年(61)		2学年(63)		3学年(70)		4学年(80)		全体(274)	
1. 自動車	32	52.5%	43	68.3%	47	67.1%	48	60.0%	170	62.0%
2. バイク	0	0.0%	3	4.8%	1	1.4%	0	0.0%	4	1.5%
3. 自転車	25	41.0%	24	38.1%	20	28.6%	22	27.5%	91	33.2%
4. 運転する機会がない	15	24.6%	11	17.5%	14	20.0%	18	22.5%	58	21.2%

問3. 自動車・バイク・自転車を運転中にヒヤリ・ハットを経験したことはあるか(任意回答)

「ある」と回答した割合は16.5%で、前年(16.4%)とほぼ同率であった。自由記述では、交差点や一時停止無視などの交通環境要因に加え、「眠気」や「居眠り運転」に関する記述もあり、前年同様の傾向が見られた。過去数年で大きな変化はないが、引き続き安全運転や体調管理への注意喚起が必要である。

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
1. ある	12	20.0%	7	11.1%	7	10.0%	19	23.8%	45	16.5%
2. ない	48	80.0%	56	88.9%	63	90.0%	61	76.3%	228	83.5%
計	60	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	273	100.0%

◆ヒヤリ・ハットの内容

[1年生]

- ・車の死角に入ってしまったし轢かれそうになった
- ・止まれで止まった後前に出たら車が来ていた
- ・夜間に運転している時に前の車に強引に車線変更された
- ・横断歩道で歩いている人に気づかなくて轢きそうになった。
- ・木陰からスピードの早い自転車が来て気付かずぶつかりそうになった
- ・キツネを引きそうになった
- ・小学生が道路を急に横断してきた時
- ・人や車に気付かなかった

[2年生]

- ・子供のとびだし
- ・右折の際に直進車が信号機が赤なのに突っ込んで、ぶつかりそうになった
- ・轢かれそうになった
- ・鹿が出てきたこと
- ・自転車で道路を走っていたら、一時停止無視の車が横から飛び出してきた。
- ・横の道から急に車や人が飛び出してきたこと

[3年生]

- ・ぶつかりそうになった
- ・玉突き
- ・横から車が飛び出してくる。
- ・前の車の急ブレーキ
- ・急に車が飛び出してきた

[4年生]

- ・一時停止を無視してきた自転車を轢きそうになった
- ・轍によってバスと正面衝突しそうになった
- ・相手が一時停止を無視して飛び出してきた
- ・徹夜後ふらつきながら自転車を運転した際
- ・バックしてポールにぶつけそうになった
- ・ぼーっとして前の車に突進しそうになった
- ・歩行者が飛び出してきた
- ・居眠り運転をしそうになった(2)
- ・自転車で乗っている時に自動車、人が急に出てきた。
- ・ぶつかりそうになる
- ・居眠り運転
- ・交差点を通ろうとしたら、横断歩道に歩行者が走ってきた
- ・雨で見えず人が歩いてることに気づくのが遅くなった
- ・雪道ゆっくり走ってもスリップした時、酔っぱらいが道路に飛び出してきた時
- ・夜運転していて、黒い服を着てる人が見えなくて急に出てきた時
- ・轍にはまった
- ・脇道から国道に出る時、夜間で歩道にいる歩行者が見えづかったことがある

問4. 住居の種類

「実家」35.0%、「アパート・マンション」59.5%、「下宿」4.7%で、一人暮らしの割合は前年(61.4%)から微増した。実家生が35.0%と前年(38.6%)よりやや減少し、下宿は減少した。引き続きアパート・マンション居住者が多数を占め、一人暮らしの割合は引き続き高い水準にある。

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
1. 実家	19	31.1%	29	46.0%	24	34.3%	24	30.0%	96	35.0%
2. 下宿	2	3.3%	4	6.3%	1	1.4%	6	7.5%	13	4.7%
3. アパート・マンション	39	63.9%	29	46.0%	45	64.3%	50	62.5%	163	59.5%
4. その他	1	1.6%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.7%
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

◆その他

[1年生]

祖母の家

[2年生]

祖父母の実家

問5. ハザードマップで、現在の居住地や実家の浸水リスクを確認したことがあるか
 本年度新たに設けたハザードマップによる浸水リスク確認に関する設問では、「確認したことがある」と回答した学生は33.6%にとどまり、「確認したことはない」が63.5%と過半数を占めた。また、ハザードマップ自体を「知らない」とする学生も2.9%存在していた。

本学学生の多くがアパート・マンションでの一人暮らしであることを踏まえると、居住地域の災害リスクを十分に把握していない学生が一定数存在する可能性が示唆される。今後は、新入生オリエンテーションや防災関連の情報提供の機会を通じて、ハザードマップの存在および活用方法について周知を図ることが望まれる。

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
1. 確認したことがある	21	34.4%	22	34.9%	19	27.1%	30	37.5%	92	33.6%
2. 確認したことはない	36	59.0%	40	63.5%	49	70.0%	49	61.3%	174	63.5%
3. ハザードマップを知らない	4	6.6%	1	1.6%	2	2.9%	1	1.3%	8	2.9%
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

問6. 学期中の(平日)生活時間について

A)学内での授業期間中

(1)平均睡眠時間

6時間以上8時間未満が65.0%で最も多く、前年(71.8%)より6.8ポイント減少した。6時間未満は20.1%(R6:18.1%)とやや増加し、全体的に睡眠時間の短縮傾向が見られる。平均睡眠時間は6.2時間で前年より0.1時間減少し、特に1~2年生で短い傾向にある。授業や課題量の影響による生活リズムの圧迫が示唆される。

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
6時間未満	17	27.9%	20	31.7%	11	15.7%	7	8.8%	55	20.1%
6時間以上8時間未満	37	60.7%	38	60.3%	44	62.9%	59	73.8%	178	65.0%
8時間以上	7	11.5%	5	7.9%	15	21.4%	14	17.5%	41	15.0%
平均(時間/日)	5.9		5.7		6.5		6.5		6.2	
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

(2)平均学習時間(講義時間は除く)

「1~2時間未満」が38.7%で前年(43.7%)から減少し、「2~3時間未満」(29.2%)や「3時間以上」の割合が増加した。平均学習時間は1.7時間(前年1.8時間)でほぼ横ばいであるが、4年生で長時間学習者が増加している。授業外学習への取り組みがやや活発化していると考えられる。

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
1時間未満	10	16.4%	10	15.9%	10	14.3%	3	3.8%	33	12.0%
1時間以上2時間未満	33	54.1%	26	41.3%	29	41.4%	18	22.5%	106	38.7%
2時間以上3時間未満	12	19.7%	20	31.7%	18	25.7%	30	37.5%	80	29.2%
3時間以上4時間未満	3	4.9%	6	9.5%	8	11.4%	12	15.0%	29	10.6%
4時間以上	3	4.9%	1	1.6%	5	7.1%	17	21.3%	26	9.5%
平均(時間/日)	1.4		1.4		1.6		2.4		1.7	
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

(3)インターネット接続時間(携帯電話・スマートフォン含む)

「4時間以上」が52.2%で、前年(47.1%)より5.1ポイント増加した。平均時間は3.9時間で前年並みだが、上位層で利用時間が延長している。学習・私生活双方におけるデジタル依存の継続傾向がうかがえる。

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
1時間未満	2	3.3%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	3	1.1%
1時間以上2時間未満	3	4.9%	8	12.7%	2	2.9%	0	0.0%	13	4.7%
2時間以上3時間未満	11	18.0%	10	15.9%	11	15.7%	16	20.0%	48	17.5%
3時間以上4時間未満	10	16.4%	16	25.4%	23	32.9%	18	22.5%	67	24.5%
4時間以上	35	57.4%	29	46.0%	33	47.1%	46	57.5%	143	52.2%
平均(時間/週)	4.1		3.6		4.2		4.1		4.0	
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

(4)1週間あたりの課外活動時間

「1時間未満」が76.6%と前年(62.4%)より大幅に増加した。平均は0.5時間(前年0.9時間)で、活動量は減少している。多忙な授業・実習準備やアルバイトの影響により、課外活動への参加がさらに縮小している可能性がある。

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
1時間未満	48	78.7%	46	73.0%	51	72.9%	65	81.3%	210	76.6%
1時間以上2時間未満	3	4.9%	5	7.9%	11	15.7%	7	8.8%	26	9.5%
2時間以上3時間未満	3	4.9%	5	7.9%	4	5.7%	3	3.8%	15	5.5%
3時間以上4時間未満	4	6.6%	3	4.8%	0	0.0%	1	1.3%	8	2.9%
4時間以上	3	4.9%	4	6.3%	4	5.7%	4	5.0%	15	5.5%
平均(時間/週)	0.5		0.7		0.5		0.4		0.5	
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

問7. 学期中の(平日)生活時間について(1年生は任意)

実習中の平均睡眠時間は6時間未満が71.5%で、前年(81.9%)から10ポイント改善したが、依然として睡眠不足傾向が見られる。平均学習時間は「4時間以上」が60.9%で前年(73.1%)より低下しており、学習時間の集中度はやや緩和されたと考えられる。一方、インターネット利用時間は「2～3時間未満」および「1～2時間未満」が増え、平均1.7時間(前年1.5時間)とやや延長した。課外活動はほぼゼロで、前年並み(約0.1時間)で変化はない。

B)実習中

(1)平均睡眠時間

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
6時間未満	9	14.8%	52	82.5%	64	91.4%	71	88.8%	196	71.5%
6時間以上8時間未満	5	8.2%	11	17.5%	5	7.1%	7	8.8%	28	10.2%
8時間以上	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	2	2.5%	3	1.1%
無回答	47	77.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	47	17.2%
平均(時間/日)	4.4		4.2		3.2		3.8		3.9	
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

(2)平均学習時間(講義時間は除く)

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
1時間未満	3	4.9%	2	3.2%	0	0.0%	1	1.3%	6	2.2%
1時間以上2時間未満	3	4.9%	6	9.5%	1	1.4%	3	3.8%	13	4.7%
2時間以上3時間未満	1	1.6%	6	9.5%	4	5.7%	4	5.0%	15	5.5%
3時間以上4時間未満	2	3.3%	13	20.6%	2	2.9%	9	11.3%	26	9.5%
4時間以上	5	8.2%	36	57.1%	63	90.0%	63	78.8%	167	60.9%
無回答	47	77.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	47	17.2%
平均(時間/日)	2.5		3.9		6.7		5.3		4.6	
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

(3)インターネット閲覧時間(携帯電話・スマートフォン含む)

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
1時間未満	2	3.3%	6	9.5%	8	11.4%	5	6.3%	21	7.7%
1時間以上2時間未満	1	1.6%	20	31.7%	38	54.3%	42	52.5%	101	36.9%
2時間以上3時間未満	2	3.3%	17	27.0%	9	12.9%	11	13.8%	39	14.2%
3時間以上4時間未満	2	3.3%	12	19.0%	6	8.6%	10	12.5%	30	10.9%
4時間以上	7	11.5%	8	12.7%	9	12.9%	12	15.0%	36	13.1%
無回答	47	77.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	47	17.2%
平均(時間/週)	4.1		2.0		1.9		2.1		2.5	
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

(4)1週間あたりの課外活動時間

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
1時間未満	11	18.0%	60	95.2%	68	97.1%	76	95.0%	215	78.5%
1時間以上2時間未満	1	1.6%	2	3.2%	0	0.0%	2	2.5%	5	1.8%
2時間以上3時間未満	0	0.0%	1	1.6%	0	0.0%	1	1.3%	2	0.7%
3時間以上4時間未満	1	1.6%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	2	0.7%
4時間以上	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.3%	2	0.7%
無回答	47	77.0%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	48	17.5%
平均(時間/週)	0.7		0.1		0.0		0.1		0.2	
計	61	23.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	226	100.0%

問8. 学期中の(土日祝)生活時間について

平均睡眠時間は7.5時間で、前年(7.6時間)とほぼ同水準であった。8時間以上の割合が58.8%と前年(51.7%)より上昇し、休日は十分な休養を取る学生が増加したと考えられる。平均学習時間は2.5時間(R6:2.0時間)で増加し、特に4年生で長時間学習者が増加している。インターネット利用は「4時間以上」が66.8%と依然高く、前年(73.1%)から微減したが、依然として私的利用が中心であることが推察される。課外活動は平均0.3時間(R6:0.3時間)で変化は少なく、休日においても学業・休養中心の生活傾向が続いている。

A)学内での授業期間中

(1)平均睡眠時間

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
6時間未満	8	13.1%	13	20.6%	6	8.6%	7	8.8%	34	12.4%
6時間以上8時間未満	16	26.2%	19	30.2%	18	25.7%	26	32.5%	79	28.8%
8時間以上	37	60.7%	31	49.2%	46	65.7%	47	58.8%	161	58.8%
平均(時間/日)	7.5		7.1		7.8		7.6		7.5	
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

(2)平均学習時間(講義時間は除く)

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
1時間未満	11	18.0%	13	20.6%	11	15.7%	2	2.5%	37	13.5%
1時間以上2時間未満	31	50.8%	21	33.3%	25	35.7%	14	17.5%	91	33.2%
2時間以上3時間未満	9	14.8%	16	25.4%	18	25.7%	19	23.8%	62	22.6%
3時間以上4時間未満	6	9.8%	11	17.5%	5	7.1%	11	13.8%	33	12.0%
4時間以上	4	6.6%	2	3.2%	11	15.7%	34	42.5%	51	18.6%
平均(時間/日)	1.4		1.5		1.8		3.3		2.0	
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

(3)インターネット閲覧時間(携帯電話・スマートフォン含む)

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
1時間未満	0	0.0%	0	0.0%	2	2.9%	2	2.5%	4	1.5%
1時間以上2時間未満	0	0.0%	4	6.3%	3	4.3%	2	2.5%	9	3.3%
2時間以上3時間未満	7	11.5%	3	4.8%	9	12.9%	14	17.5%	33	12.0%
3時間以上4時間未満	8	13.1%	17	27.0%	11	15.7%	9	11.3%	45	16.4%
4時間以上	46	75.4%	39	61.9%	45	64.3%	53	66.3%	183	66.8%
平均(時間/週)	5.9		4.7		4.7		4.5		4.9	
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

(4)1週間あたりの課外活動時間

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
1時間未満	46	75.4%	45	71.4%	55	78.6%	63	78.8%	209	76.3%
1時間以上2時間未満	3	4.9%	7	11.1%	3	4.3%	6	7.5%	19	6.9%
2時間以上3時間未満	1	1.6%	3	4.8%	6	8.6%	5	6.3%	15	5.5%
3時間以上4時間未満	6	9.8%	3	4.8%	2	2.9%	3	3.8%	14	5.1%
4時間以上	5	8.2%	5	7.9%	4	5.7%	3	3.8%	17	6.2%
平均(時間/週)	0.8		0.9		0.6		0.5		0.7	
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

問9. 学期中の(土日祝)生活時間について

実習中の休日は「8時間以上の睡眠」が27.0%で前年(27.7%)と同水準、「6時間未満」は20.1%で約7ポイント減少した。学業負担の改善により休息時間がやや確保されている。平均学習時間は「4時間以上」が60.6%で、前年(68.5%)より減少し、学習時間の平準化が見られる。インターネット利用は前年より増加し、「3時間以上」がR6の49.2%→R7の63.1%と拡大した。課外活動は引き続き少なく、平均は0.1時間。実習期間は依然として生活時間が学業中心に偏っている。

B)実習中(1年生は任意)

(1)平均睡眠時間

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
6時間未満	3	4.9%	26	41.3%	15	21.4%	11	13.8%	55	20.1%
6時間以上8時間未満	3	4.9%	24	38.1%	33	47.1%	28	35.0%	88	32.1%
8時間以上	1	1.6%	10	15.9%	22	31.4%	41	51.3%	74	27.0%
無回答	54	88.5%	3	4.8%	0	0.0%	0	0.0%	57	20.8%
平均(時間/日)	5.4		5.8		6.7		7.4		6.3	
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

(2)平均学習時間(講義時間は除く)

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
1時間未満	2	3.3%	2	3.2%	1	1.4%	0	0.0%	5	1.8%
1時間以上2時間未満	1	1.6%	3	4.8%	0	0.0%	2	2.5%	6	2.2%
2時間以上3時間未満	1	1.6%	7	11.1%	5	7.1%	3	3.8%	16	5.8%
3時間以上4時間未満	2	3.3%	9	14.3%	5	7.1%	9	11.3%	25	9.1%
4時間以上	2	3.3%	39	61.9%	59	84.3%	66	82.5%	166	60.6%
無回答	53	86.9%	3	4.8%	0	0.0%	0	0.0%	56	20.4%
平均(時間/日)	2.5		4.5		7.7		6.2		5.2	
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

(3)インターネット閲覧時間(携帯電話・スマートフォン含む)

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
1時間未満	0	0.0%	2	3.2%	3	4.3%	2	2.5%	7	2.6%
1時間以上2時間未満	0	0.0%	12	19.0%	14	20.0%	13	16.3%	39	14.2%
2時間以上3時間未満	2	3.3%	13	20.6%	18	25.7%	19	23.8%	52	19.0%
3時間以上4時間未満	2	3.3%	14	22.2%	18	25.7%	21	26.3%	55	20.1%
4時間以上	4	6.6%	18	28.6%	16	22.9%	25	31.3%	63	23.0%
無回答	53	86.9%	4	6.3%	1	1.4%	0	0.0%	58	21.2%
平均(時間/週)	5.5		2.8		2.9		3.2		3.6	
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

(4)1週間あたりの課外活動時間

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
1時間未満	5	8.2%	54	85.7%	64	91.4%	72	90.0%	195	71.2%
1時間以上2時間未満	0	0.0%	4	6.3%	4	5.7%	4	5.0%	12	4.4%
2時間以上3時間未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.5%	2	0.7%
3時間以上4時間未満	2	3.3%	1	1.6%	1	1.4%	0	0.0%	4	1.5%
4時間以上	1	1.6%	1	1.6%	1	1.4%	2	2.5%	5	1.8%
無回答	53	86.9%	3	4.8%	0	0.0%	0	0.0%	56	20.4%
平均(時間/週)	1.5		0.2		0.2		0.3		0.5	
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

問10. 家庭からの仕送り、あるいは小遣い

「なし」が49.3%で前年(52.5%)から3ポイント減少したが、依然として半数を占めている。2～6万円未満の支援が全体の約43%を占め、前年と同様の傾向を示す。平均支給額は前年とほぼ同等で、経済状況の大きな変化は認められない。家計支援に依存しない学生が多く、自立志向やアルバイト収入との併用がうかがわれる。

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
なし	27	44.3%	37	58.7%	30	42.9%	41	51.3%	135	49.3%
2万円未満	6	9.8%	7	11.1%	10	14.3%	6	7.5%	29	10.6%
2万円以上4万円未満	11	18.0%	7	11.1%	10	14.3%	12	15.0%	40	14.6%
4万円以上6万円未満	9	14.8%	6	9.5%	11	15.7%	16	20.0%	42	15.3%
6万円以上8万円未満	2	3.3%	1	1.6%	2	2.9%	1	1.3%	6	2.2%
8万円以上10万円未満	3	4.9%	0	0.0%	2	2.9%	0	0.0%	5	1.8%
10万円以上	3	4.9%	5	7.9%	5	7.1%	4	5.0%	17	6.2%
平均	27,049		18,968		26,686		21,816		23,570	
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

問11. 1ヶ月の奨学金はいくらか

奨学金を受けていない学生は13.5%で、前年(10.1%)から微増した。4万～6万円未満が32.1%で前年(34.5%)と同水準を保ち、最も多い層であった。6～10万円未満を合わせると27.9%を占め、支給額の間層に集中している。14万円以上は10.9%で前年(10.5%)とほぼ同程度であり、全体として奨学金額の分布は安定して推移している。

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
なし	8	13.1%	3	4.8%	12	17.1%	14	17.5%	37	13.5%
2万円未満	5	8.2%	2	3.2%	9	12.9%	10	12.5%	26	9.5%
2万円以上4万円未満	1	1.6%	2	3.2%	2	2.9%	3	3.8%	8	2.9%
4万円以上6万円未満	19	31.1%	30	47.6%	21	30.0%	18	22.5%	88	32.1%
6万円以上8万円未満	4	6.6%	10	15.9%	11	15.7%	9	11.3%	34	12.4%
8万円以上10万円未満	3	4.9%	1	1.6%	0	0.0%	3	3.8%	7	2.6%
10万円以上12万円未満	7	11.5%	11	17.5%	5	7.1%	8	10.0%	31	11.3%
12万円以上14万円未満	3	4.9%	2	3.2%	4	5.7%	4	5.0%	13	4.7%
14万円以上	11	18.0%	2	3.2%	6	8.6%	11	13.8%	30	10.9%
平均	78,031		70,683		57,787		63,946		67,057	
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

問12. 過去1年間にアルバイトをしたことがあるか。

アルバイトを「継続的にしている」は65.3%で、前年(「ある」88.6%のうち継続含む)に比べるとやや減少傾向が見られた。「単発的にしている」が19.7%と増加し、多様な働き方が広がっていることを示す。「していない」は15.0%で、前年の約11%に比べ若干増加している。実習時期や学業負担の影響が就労形態に変化を与えていると考えられる。

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
1. 1年間にわたって継続的にしている	39	63.9%	51	81.0%	38	54.3%	51	63.8%	179	65.3%
2. 単発的にしている	11	18.0%	6	9.5%	21	30.0%	16	20.0%	54	19.7%
3. していない	11	18.0%	6	9.5%	11	15.7%	13	16.3%	41	15.0%
計	61	100%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

問13. アルバイトの種類(複数選択)

※アルバイトをしている対する割合

「接客業」が83.7%と最も多く、前年(77.8%)より約6ポイント増加した。ついで「販売業」16.3%(R6:10.6%)、「家庭教師」2.1%(R6:0.6%)であり、学生の多くが対人業務を中心に働いている傾向は前年と同様である。飲食・小売を中心とした地域雇用構造を反映しており、対人スキルを養う機会として一定の意義がある一方で、労働時間管理や安全確保への意識啓発も引き続き必要である。

	1学年(50)		2学年(57)		3学年(59)		4学年(67)		全体(233)	
1. 家庭教師	0	0.0%	3	5.3%	0	0.0%	2	3.0%	5	2.1%
2. 事務的職種	1	2.0%	0	0.0%	1	1.7%	3	4.5%	5	2.1%
3. 接客業	43	86.0%	51	89.5%	47	79.7%	54	80.6%	195	83.7%
4. 販売業	10	20.0%	9	15.8%	8	13.6%	11	16.4%	38	16.3%
5. その他	3	6.0%	0	0.0%	6	10.2%	6	9.0%	15	6.4%

◆その他

[1年生]

塾の事務、講師
公文
飲食

[3年生]

漁業
飲食
介護施設(2)
パン製造
選果場

[4年生]

引っ越し
飲食店(5)
塾講師

問14.【講義期間中】1ヶ月あたりの平均収入

「4～6万円未満」が32.8%で最も多く、前年(37.2%)よりやや減少した。次いで「2～4万円未満」21.5%、「6～8万円未満」10.6%と続く。全体の分布は前年と近似しており、平均収入も約6万円台で大きな変動はない。学期中は授業・実習との両立により、短時間勤務の傾向が続いている。

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
2万円未満	8	13.1%	3	4.8%	4	5.7%	7	8.8%	22	8.0%
2万円以上4万円未満	18	29.5%	14	22.2%	8	11.4%	19	23.8%	59	21.5%
4万円以上6万円未満	15	24.6%	26	41.3%	26	37.1%	23	28.8%	90	32.8%
6万円以上8万円未満	6	9.8%	9	14.3%	7	10.0%	7	8.8%	29	10.6%
8万円以上10万円未満	2	3.3%	4	6.3%	2	2.9%	6	7.5%	14	5.1%
10万円以上12万円未満	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%
12万円以上14万円未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
14万円以上	0	0.0%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%
無回答	11	18.0%	6	9.5%	23	32.9%	18	22.5%	58	21.2%
平均	37,340		47,456		34,305		38,597		39,258	
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

問15.【長期休暇中】1ヶ月あたりの平均収入

全体の収入分布は講義期間中と近似しているが、「6～8万円未満」(19.0%)および「4～6万円未満」(18.2%)が多く、平均収入は6万円前後である。講義期間中に比べ、おおよそ3万円程度増収している。これは長期休暇中のみアルバイトを行ったり、増やしたりする学生がいるためだと考える。

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
2万円未満	3	4.9%	3	4.8%	2	2.9%	3	3.8%	11	4.0%
2万円以上4万円未満	6	9.8%	7	11.1%	3	4.3%	10	12.5%	26	9.5%
4万円以上6万円未満	14	23.0%	11	17.5%	14	20.0%	11	13.8%	50	18.2%
6万円以上8万円未満	11	18.0%	12	19.0%	15	21.4%	14	17.5%	52	19.0%
8万円以上10万円未満	8	13.1%	13	20.6%	8	11.4%	17	21.3%	46	16.8%
10万円以上12万円未満	5	8.2%	7	11.1%	10	14.3%	10	12.5%	32	11.7%
12万円以上14万円未満	0	0.0%	2	3.2%	4	5.7%	1	1.3%	7	2.6%
14万円以上	3	4.9%	1	1.6%	3	4.3%	0	0.0%	7	2.6%
無回答	11	18.0%	7	11.1%	11	15.7%	14	17.5%	43	15.7%
平均	62,260		65,965		74,102		63,254		66,427	
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

問16. 最近6ヶ月の健康状態について

「良好」51.8%、「不調なときがあるが日常生活に支障はない」37.2%で、両者を合わせると約9割を占め、前年(R6: 同計86.1%)よりやや増加した。不調による通院経験者は9.5%(R6: 7.6%)と僅かに上昇したものの、全体としてはおおむね良好な健康状態が維持されているといえる。ただし、学年別では4年生で通院経験がやや多く、国試勉強や実習による心身負担の影響も考えられる。

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
1. 良好	35	57.4%	32	50.8%	34	48.6%	41	51.3%	142	51.8%
2. 不調なときがあるが、日常生活に支障はない	22	36.1%	26	41.3%	28	40.0%	26	32.5%	102	37.2%
3. 不調のときがあり、通院したことがある	4	6.6%	3	4.8%	6	8.6%	10	12.5%	23	8.4%
4. 不調なときが多いが、病院には行っていない	0	0.0%	2	3.2%	1	1.4%	1	1.3%	4	1.5%
5. 不調で通院している	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	2	2.5%	3	1.1%
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

問17. 悩んでいることはあるか(複数選択)

※回答者数に対する割合

全体では「学業成績」(34.7%)と「看護師としての適性」(31.8%)が上位となり、前年(46.2%・30.3%)から順位が入れ替わった。特に1年生では「学業成績」が高く、4年生では「将来の進路」や「健康面」での悩みがやや増加している。「悩みはない」は35.0%で、前年(30.3%)より増加した。進級に伴う悩みの性質変化がみられるため、適切なタイミングで支援していく必要がある。

	1学年(61)		2学年(63)		3学年(70)		4学年(80)		全体(274)	
1. 看護師としての適性	20	32.8%	24	38.1%	21	30.0%	22	27.5%	87	31.8%
2. 健康	11	18.0%	14	22.2%	9	12.9%	14	17.5%	48	17.5%
3. 将来の進路や就職	14	23.0%	13	20.6%	21	30.0%	18	22.5%	66	24.1%
4. 友人との人間関係	12	19.7%	10	15.9%	3	4.3%	7	8.8%	32	11.7%
5. 生活費や授業料など経済的な問題	9	14.8%	2	3.2%	6	8.6%	10	12.5%	27	9.9%
6. 家庭の問題	1	1.6%	3	4.8%	2	2.9%	4	5.0%	10	3.6%
7. 学業成績	30	49.2%	23	36.5%	16	22.9%	26	32.5%	95	34.7%
8. 教員との人間関係	0	0.0%	0	0.0%	2	2.9%	3	3.8%	5	1.8%
9. 異性問題	1	1.6%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	2	0.7%
10. ネット上のトラブル	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
11. 家族の世話やケア	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	1	0.4%
12. 悩みはない	17	27.9%	24	38.1%	29	41.4%	26	32.5%	96	35.0%
13. その他	0	0.0%	0	0.0%	2	2.9%	2	2.5%	4	1.5%

◆その他

[2年生]

実習の睡眠時間

夜間騒音によるアパートの居住環境

[4年生]

国試、研究

国試勉強

問18. 食事の回数

講義期間中に「3食とる」学生は68.2%で、前年(62.2%)より約6ポイント上昇した。長期休暇中も56.9%と増加傾向にあり、全体的に食生活の規則性がやや改善している。「2食」は30.3%(R6:34.0%)で減少しており、授業スケジュールや生活習慣の安定化が一因と考えられる。少数ながら「1食」「4食以上」も見られるが、全体では良好な傾向を示している。

A) 講義期間中

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
1. 1食	0	0.0%	1	1.6%	0	0.0%	2	2.5%	3	1.1%
2. 2食	19	31.1%	20	31.7%	14	20.0%	30	37.5%	83	30.3%
3. 3食	42	68.9%	42	66.7%	56	80.0%	47	58.8%	187	68.2%
4. 4食以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.3%	1	0.4%
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

B) 長期休暇中

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
1. 1食	7	11.5%	5	7.9%	2	2.9%	5	6.3%	19	6.9%
2. 2食	24	39.3%	19	30.2%	19	27.1%	35	43.8%	97	35.4%
3. 3食	30	49.2%	39	61.9%	48	68.6%	39	48.8%	156	56.9%
4. 4食以上	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	1	1.3%	2	0.7%
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

問19. なぜ3食とらないのか

※「3食」以外を答えた人に対する割合

「時間がない」41.4%が最多で、前年(30.0%)を上回った。次いで「食欲がない」33.3%(R6:20.0%)と増加し、多忙やストレスが食生活に影響している様子がうかがえる。一方「食べる習慣がない」という設問がなくなったため単純比較はできないが、自由記述でも「起きるのが遅い」「朝昼兼用」といった声が多く、生活リズム上の課題は依然として残る。

	1学年(19)		2学年(21)		3学年(14)		4学年(33)		全体(87)	
1. お金がない	2	10.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.3%
2. 時間がない	7	36.8%	10	47.6%	7	50.0%	12	36.4%	36	41.4%
3. 食欲がない	8	42.1%	8	38.1%	5	35.7%	8	24.2%	29	33.3%
4. どれでもよい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5. ダイエット中	2	10.5%	2	9.5%	1	7.1%	3	9.1%	8	9.2%
6. その他	4	21.1%	2	9.5%	2	14.3%	5	15.2%	13	14.9%

◆その他

[1年生]

寝ているから起きたらもう夕方とかになっている

朝昼兼用だから(2)

起きたら昼だから

[2年生]

朝昼兼用

生活リズムが変わる

[3年生]

寝ている(2)

[4年生]

朝起きれないから

朝昼兼用(2)

寝ている

わずれる

問20. 生理用品を使用したことがあるか

「ある」と回答した割合は63.1%で、前年(48.3%)より大幅に増加した。この変化は、設置場所や利用状況の周知が進んだことを示唆する。「男性の方はこちら」と回答した割合は11.7%(R6:13.0%)と微減し、性別による回答の偏りも大きく変化していない。設置環境や補充体制の改善により、利用促進が進んだ結果と考えられる。

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
1. ある	35	57.4%	37	58.7%	43	61.4%	58	72.5%	173	63.1%
2. ない	24	39.3%	11	17.5%	15	21.4%	19	23.8%	69	25.2%
3. 男性の方はこちら	2	3.3%	15	23.8%	12	17.1%	3	3.8%	32	11.7%
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

問21. 個室の生理用品を何回使用したことがあるか

「1～3回程度」の利用が約52%を占め、定期的利用は少数にとどまる。「使用経験なし(無回答)」は38.0%で前年(使用経験なしを含む利用率48.3%)と近似しており、一定数の学生に利用が定着している状況である。平均的には「数回利用する学生」が主であり、緊急時対応としての機能はおおむね維持されている。継続的な周知と補充状況の確認が重要といえる。

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
1. 1回	9	14.8%	3	4.8%	8	11.4%	14	17.5%	34	12.4%
2. 2回	5	8.2%	16	25.4%	13	18.6%	15	18.8%	49	17.9%
3. 3回	18	29.5%	10	15.9%	12	17.1%	18	22.5%	58	21.2%
4. 4回以上	2	3.3%	8	12.7%	9	12.9%	10	12.5%	29	10.6%
5. 無回答	27	44.3%	26	41.3%	28	40.0%	23	28.8%	104	38.0%
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

問22. 生理用品を利用していない理由

自由記述では、「自分で持っているから」「使用機会がない」「設置場所にない(補充がない)」が多く、前年と同傾向であった。一方、「自分に合わない」「知らなかった」の回答も複数見られ、利便性よりも“個人の選好”に基づく未利用が中心である。R7では特に「必要な時に置いてなかった」という実用的理由が複数出ており、管理や補充体制の見直しが求められる。

[1年生]

- ・自分で持ってきている(14)
- ・補充されていないから(2)
- ・する機会がないから
- ・必要な時がなかった
- ・使いたくないから
- ・自分に合わないから
- ・朝学校来る前に生理が始まるのがほとんどだから、ナプキンを持ってないことがない
- ・とくに理由はない

[2年生]

- ・自分で持っている(3)
- ・知らない
- ・生理用品がないことが多いから(2)
- ・知らなかった

[3年生]

- ・自分で持つ(11)

[4年生]

- ・自分で持つ(12)
- ・必要なタイミングがなかったから
- ・自身の経血量とサイズが合っていないため
- ・自分にあつたの使いたいし、使いたい時に置いてなかった
- ・必要になることがない
- ・特に理由はない

問23. 本学に入学した理由(複数選択)

※回答者数に対する割合

「看護師になりたいから」が67.5%(R6:71.0%)で最も多いが、やや減少した。「赤十字で学びたかったから」44.2%(R6:37.8%)、「奨学金が充実していたから」35.4%(R6:39.9%)とほぼ前年並みである。自由記述では「地元志向」や「親の勧め」といった例が増加しており、職業志向に加え進学先の利便性を重視する学生が増えている傾向が見られる。

	1学年(61)		2学年(63)		3学年(70)		4学年(80)		全体(274)	
1. 赤十字で学びたかったから	26	42.6%	35	55.6%	31	44.3%	29	36.3%	121	44.2%
2. 奨学金が充実していたから	19	31.1%	21	33.3%	23	32.9%	34	42.5%	97	35.4%
3. 看護師になりたいから	42	68.9%	40	63.5%	42	60.0%	61	76.3%	185	67.5%
4. 保健師になりたいから	13	21.3%	11	17.5%	11	15.7%	10	12.5%	45	16.4%
5. 就職に有利だと思ったから	18	29.5%	13	20.6%	14	20.0%	21	26.3%	66	24.1%
6. 大学の場所	11	18.0%	19	30.2%	9	12.9%	12	15.0%	51	18.6%
7. その他	3	4.9%	3	4.8%	2	2.9%	5	6.3%	13	4.7%

◆その他

[1年生]

- ・地元だったから
- ・親の勧め
- ・第1志望に落ちたから
- ・助産師になりたいから

[2年生]

- ・第一志望に落ちたから
- ・家庭的事情(2)

[3年生]

- ・さついち落ちたから
- ・助産師

[4年生]

- ・北海道に住んでみたかった
- ・共通テスト滑ったから
- ・親に言われたから
- ・助産師になりたいから(2)

問24. 本学に入學して良かったと思うか

「**そう思う**」「**ややそう思う**」の合計は74.8%で、前年(73.1%)とほぼ同水準を維持した。「**どちらともいえない**」は16.4%(R6: 19.3%相当)とわずかに減少している。依然として7割超の学生が肯定的に捉えており、教育環境や学生支援への一定の満足度が確認できる一方、回答分布に大きな変動はなく、さらなる魅力づけが今後の課題である。

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
1. そう思う	28	45.9%	30	47.6%	14	20.0%	18	22.5%	90	32.8%
2. ややそう思う	26	42.6%	25	39.7%	35	50.0%	29	36.3%	115	42.0%
3. どちらともいえない	2	3.3%	7	11.1%	15	21.4%	21	26.3%	45	16.4%
4. あまりそう思わない	4	6.6%	1	1.6%	6	8.6%	6	7.5%	17	6.2%
5. そう思わない	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	6	7.5%	7	2.6%
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

問25. 本学に興味を持っている後輩や兄弟がいる場合、その人に入學を勧めたいと思うか

「**そう思う**」「**ややそう思う**」の合計は50.8%からR7では58.4%へ上昇した。一方「**どちらともいえない**」28.5%で前年(37.8%)から減少し、肯定的回答が増加している。

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
1. そう思う	17	27.9%	23	36.5%	8	11.4%	18	22.5%	66	24.1%
2. ややそう思う	18	29.5%	23	36.5%	24	34.3%	29	36.3%	94	34.3%
3. どちらともいえない	21	34.4%	13	20.6%	23	32.9%	21	26.3%	78	28.5%
4. あまりそう思わない	3	4.9%	4	6.3%	11	15.7%	6	7.5%	24	8.8%
5. そう思わない	2	3.3%	0	0.0%	4	5.7%	6	7.5%	12	4.4%
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

問26. 勧めたい理由

自由記述では「**赤十字の学びができる**」「**奨学金が充実している**」「**先生が親身**」「**設備・環境が整っている**」が多く挙げられた。全学年を通し「**災害看護を学べる**」「**実習施設が充実**」「**校舎がきれい**」といった意見が目立ち、前年に引き続き教育・施設面での満足度が高い。また、4学年では就職についての意見が挙げられ、満足度が高かった。

[1年生]

- ・赤十字ならではの勉強ができる(7)
- ・災害看護を学べる(2)
- ・授業や実習が充実している(5)
- ・奨学金が充実している(4)
- ・設備が充実している(3)
- ・他の大学では学べないことを学べる
- ・支援が充実している
- ・学習環境の快適さ(2)
- ・人数が少ない
- ・人数が多すぎず、落ち着く
- ・先生方が一人一人に親身に教えてくれるところ
- ・人柄がいい先生が多くて手厚い
- ・授業が丁寧に教えてもらえる
- ・学校の雰囲気がいい。
- ・楽しく通えているところや、生活も充実していると感じているから。
- ・大学が綺麗
- ・楽しい(2)
- ・友達が素敵

[2年生]

- ・赤十字でしか学べない授業があるところ(6)
- ・災害について学べる(3)
- ・奨学金が充実している(4)
- ・設備が充実している(2)
- ・赤十字の奨学金を借りながら通学できるため経済的な負担が軽減される
- ・看護師になれるところ
- ・楽しい(2)
- ・学校綺麗(2)
- ・講義内容
- ・科目が充実している
- ・授業がわかりやすい
- ・勉強しやすい環境(2)
- ・いろんな資格が取れる
- ・看護学を深く学べる
- ・避難所演習ができるところ。
- ・実習、講習、演習などで細かい技術や知識を学ぶことができる。
- ・色々学べる
- ・学びになる
- ・学校の施設
- ・就職が有利である
- ・定食おいしいこと
- ・教員、先輩がとても頼りになる。赤十字ならではの授業が楽しく自分の為になるところ。
- ・実習期間中のケア

[3年生]

- ・先生が優しい(2)
- ・先生が熱心(3)
- ・看護教員の指導がとても手厚く、実習や講義を通して指導、サポートしていただくことで看護を学ぶことができること。
- ・先生が優しく相談に乗ってくれること、勉強面に関して図書館や情報処理室の利用ができることで環境がいいこと
- ・授業の厳しさもあるが先生方が助けてくれる
- ・奨学金が充実している(3)
- ・赤十字について学べる(2)
- ・赤十字のネットワークがあるところ
- ・保健師が取れる
- ・設備が整っている
- ・就職
- ・生活が充実しているところ
- ・快適に過ごすことができること。

[4年生]

- ・赤十字を学べる(5)
- ・赤十字病院で実習できる(4)
- ・日本赤十字という名前がかっこいい(2)
- ・実習施設の充実(4)
- ・先生方が親身になって下さり実習を頑張ることのできる環境であるため
- ・先生方も優しく教えてくださる
- ・先生に相談しやすい
- ・手厚い教員からのサポート
- ・先生方が手厚く教えてくれ、就職先を考えやすいため
- ・程よく田舎で遊びと勉強をバランスよくできること。先生が優しくったり良い人がいるところ。
- ・学びの環境が整えられている(2)
- ・幅広く専門的にまなべる(3)
- ・働いて奨学金返せる、実習先に同じ大学卒の人が多い
- ・奨学金制度が充実している(12)
- ・保健師の資格を大学院まで行かずに取ることが可能なこと
- ・災害について学べる、災害に詳しい教員がいる
- ・就職に強く、一貫した理念を持って働き始めることができる点。田舎で住みやすい。
- ・就職に有利。
- ・校舎が綺麗、先生が分からないところを丁寧に教えてくれる
- ・校舎が綺麗で居心地が良いところ
- ・立地

問27. 勧めたくない理由

前年同様、「学費が高い」「実習が大変」「立地の不便さ」が主な理由である。「指導に対する不満」に対する意見は、R6年に比べて減少はしているが、教育的厳しさに対する理解と同時に、個別支援の質向上が必要である。

[1年生]

- ・遠いから
- ・大学の周りが栄えていない
- ・狭いコミュニティーが辛い時がある

[2年生]

- ・講義の難易度(2)
- ・学費が高い

[3年生]

- ・実習と勉強がづらい
- ・近くに友達がいらないから
- ・立地
- ・高い
- ・忙しい
- ・つかれる
- ・北見
- ・実習の過酷さ
- ・看護を勧めたくない

[4年生]

- ・偏差値が低い
- ・うんこくさい
- ・学費の高さに見合っていない環境
- ・これはハラスメントなんじゃないかを感じる教員がいる
- ・実習が大変だから。
- ・看護師の職業自体を勧めたいと思えないため
- ・学校の周囲が何も無いのと匂いがきつい
- ・領域実習の際に受けた理不尽な指導による精神的苦痛を後輩に味わってほしくないと思うからです
- ・教育、学費
- ・実習の難易度が高いのに対し、実習時や演習時に先生の数が学生の数に見合っておらず、個別の対応が仕切れていないと感じるところが多かったため。看護学校で少人数で学んだ方が自身には向いていたかもと

問28. 就職資料室の電子化について(複数選択)

※回答者数に対する割合

「使っていないので分からない」が85.4%を占め、多くの学生が本制度を未利用であった。利用者の中では「求人を探しやすくなった」「学外から閲覧でき便利」との肯定的回答があり、限定的ながら利便性が評価されている。現状では周知不足が課題であり、積極的な利用促進と操作支援が望まれる。

	1学年(61)		2学年(63)		3学年(70)		4学年(80)		全体(274)	
1. 求人を探しやすくなった	3	4.9%	3	4.8%	4	5.7%	4	5.0%	14	5.1%
2. 就職資料室以外から閲覧できて便利になった	2	3.3%	2	3.2%	3	4.3%	11	13.8%	18	6.6%
3. 紙でのファイルの方が良かった	2	3.3%	1	1.6%	3	4.3%	4	5.0%	10	3.6%
4. 使っていないので分からない	54	88.5%	58	92.1%	59	84.3%	63	78.8%	234	85.4%
5. その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

問29. 令和7年度より導入された新しい学務システム・スマ学アプリについて、使いやすくなったところ(複数選択)

「成績確認」48.9%、「出欠登録」47.1%、「お知らせの見やすさ」37.2%の順で評価が高く、特に情報閲覧と出欠登録機能が好評であった。一方、「使いやすくなったところはない」が12.0%あり、学生間で使用感の差がみられる。導入初年度としては概ね良好な受け止めだが、操作性の統一と案内体制の整備が必要である。

	1学年(61)		2学年(63)		3学年(70)		4学年(80)		全体(274)	
1. お知らせの見やすさ	22	36.1%	19	30.2%	25	35.7%	36	45.0%	102	37.2%
2. 出欠の登録、確認	35	57.4%	54	85.7%	15	21.4%	25	31.3%	129	47.1%
3. 成績の確認	29	47.5%	37	58.7%	28	40.0%	40	50.0%	134	48.9%
4. 履修科目の管理	22	36.1%	32	50.8%	16	22.9%	20	25.0%	90	32.8%
5. 電子学生証	30	49.2%	15	23.8%	23	32.9%	19	23.8%	87	31.8%
6. 学生シートの電子化(修学ポートフォリオ)	9	14.8%	7	11.1%	2	2.9%	8	10.0%	26	9.5%
7. 使いやすくなったところはない	9	14.8%	1	1.6%	15	21.4%	8	10.0%	33	12.0%
6. その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

問30. 学務システムのお知らせ(メッセージ)はどのように確認していますか

「スマ学アプリ」56.2%が最多で、アプリ経由の確認が主流となった。次いで「Web経由」23.0%、「通知メール」20.8%と分散しており、複数のチャンネル併用が定着している。通知の信頼性や即時性を維持しつつ、学生への確認習慣の定着を促すことが重要である。

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
1. スマ学アプリ	31	50.8%	36	57.1%	40	57.1%	47	58.8%	154	56.2%
2. Web(学務システム)	13	21.3%	15	23.8%	14	20.0%	21	26.3%	63	23.0%
3. 通知メール	17	27.9%	12	19.0%	16	22.9%	12	15.0%	57	20.8%
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

問31. 学務システムのお知らせ(メッセージ)はどれくらいの頻度で確認していますか

「毎日確認している」26.3%、「2日に1回」24.1%で、半数程度の学生が比較的高頻度で確認している。「たまに確認」が46.7%を占める点から、情報周知が一部に偏っていることがうかがえる。重要連絡や締切情報を確実に届けるため、システム通知の目立たせ方やリマインド機能の強化が有効と考えられる。

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
1. 毎日確認している	22	36.1%	22	34.9%	11	15.7%	17	21.3%	72	26.3%
2. 2日に1回確認している	18	29.5%	11	17.5%	17	24.3%	20	25.0%	66	24.1%
3. たまに確認している	17	27.9%	29	46.0%	40	57.1%	42	52.5%	128	46.7%
4. 全く確認していない	4	6.6%	1	1.6%	2	2.9%	1	1.3%	8	2.9%
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

問32. スマ学アプリの出欠登録機能は使いやすいと感じますか

「出席カードより使いやすい」が67.5%と最も多く、アプリ化による利便性向上が明確に示された。一方、「カードの方が使いやすい」が7.3%あり、端末操作に不慣れな層の存在も示唆される。紙カードからの移行は概ね順調であるが、操作ガイドやトラブル対応の継続が必要である。

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
1. 出席カードより使いやすい	55	90.2%	54	85.7%	26	37.1%	50	62.5%	185	67.5%
2. 出席カードとほぼ同じ	5	8.2%	8	12.7%	34	48.6%	22	27.5%	69	25.2%
3. 出席カードの方が使いやすい	1	1.6%	1	1.6%	10	14.3%	8	10.0%	20	7.3%
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

問33. 学務システムの出欠調査状況表を確認していますか

「確認している」37.6%と4割弱にとどまり、「知らない」が23.0%と少なくない。機能自体が十分浸透していない可能性があり、授業開始時の説明や担当教員からの周知が求められる。特に上級生ほど未確認の割合が高く、使用習慣の学年差が課題である。ただし、4年生においては、履修科目が少ないことも影響している可能性がある。

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
1. 確認している	30	49.2%	34	54.0%	16	22.9%	23	28.8%	103	37.6%
2. 確認していない	26	42.6%	19	30.2%	35	50.0%	28	35.0%	108	39.4%
3. 出欠調査状況表を知らない	5	8.2%	10	15.9%	19	27.1%	29	36.3%	63	23.0%
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

問34. 電子教科書の端末

iPadタブレットが72.1%と圧倒的多数で、電子教科書の定着が確認された。ノートPC利用も19.7%と一定数存在し、学習スタイルに応じて端末が分化している。スマートフォンやデスクトップ利用は少数であるが、閲覧のみの補助活用が行われていると推察される。デスクトップを選択した学生は教室に端末を持参していない、または見えない可能性があるため、授業に持参できている媒体があるか確認が必要である。

	1学年	
1. iPadタブレット	44	72.1%
2. Androidタブレット	1	1.6%
3. スマートフォン	2	3.3%
4. ノートパソコン	12	19.7%
5. デスクトップパソコン	2	3.3%
6. その他	0	0.0%
計	61	100.0%

問35. 電子教科書をどのくらいの頻度で使いますか

「毎日」67.2%、「週に数回」31.1%で、ほぼ全員が定期的に利用している。導入環境が整備され、電子教材が学習ツールとして日常的に機能していることが示された。ほとんど使用しない学生はなく、教育のデジタル化が安定して進展している。

1学年		
1. 毎日	41	67.2%
2. 週に数回	19	31.1%
3. 月に数回	1	1.6%
4. ほとんど使用してない	0	0.0%
5. その他	0	0.0%
計	61	100.0%

問36. 電子教科書をどのくらいの頻度で使いますか(複数選択)

※回答者数に対する割合

「授業中の学内」98.4%が突出し、次いで「自宅」75.4%、「学内自習室」29.5%であった。通学中の利用は少なく、学習場面の限定的であることがわかる。今後は遠隔学習・復習支援への拡張活用が課題である。

1学年(61)		
1. 自宅	46	75.4%
2. 学内(授業中)	60	98.4%
3. 学内(自習室や図書館など)	18	29.5%
4. 通学中	2	3.3%
5. その他	0	0.0%

問37. 満足度(5=非常に満足している/1=全く満足していない)

※回答者数に対する割合

「教科書内容」「検索機能」「読み込み速度」などで肯定的評価6割前後を得ており、教材品質や利便性への満足度は高い。一方、「書き込み機能」「学習効果」に対する評価は3~4割程度にとどまり、操作性や能動的学習への適応には改善余地がある。

	5		4		3		2		1	
教科書の内容	35	57.4%	18	29.5%	6	9.8%	1	1.6%	1	1.6%
検索機能	35	57.4%	15	24.6%	7	11.5%	2	3.3%	2	3.3%
書き込み機能	21	34.4%	15	24.6%	14	23.0%	3	4.9%	8	13.1%
読みやすさ	26	42.6%	16	26.2%	13	21.3%	3	4.9%	3	4.9%
操作のしやすさ	23	37.7%	16	26.2%	12	19.7%	6	9.8%	4	6.6%
読み込みの速度	28	45.9%	19	31.1%	8	13.1%	5	8.2%	1	1.6%
接続等のアクセスのしやすさ	30	49.2%	13	21.3%	13	21.3%	2	3.3%	3	4.9%
バッテリー	26	42.6%	16	26.2%	12	19.7%	3	4.9%	4	6.6%
利便性	29	47.5%	14	23.0%	11	18.0%	4	6.6%	3	4.9%
学習効果	19	31.1%	19	31.1%	12	19.7%	9	14.8%	2	3.3%

問38. 高校まで使用していた「紙の教科書」と比較して、学習へのモチベーションや意欲に変化はありましたか。

「上がった」23.0%、「変わらない」49.2%が中心で、半数が意欲に変化なしと答えた。一方「下がった」計27.9%で、紙媒体に学びやすさを感じる層も依然残る。デジタル教材への適応は進むものの、教材形式の選択自由度の検討も重要といえる。

1学年		
1. 明らかに上がった	2	3.3%
2. やや上がった	12	19.7%
3. 変わらない	30	49.2%
4. やや下がった	12	19.7%
5. 明らかに下がった	5	8.2%
計	61	100.0%

問39. 高校まで使用していた「紙の教科書」と比較して、学習内容の理解度や知識の定着度に変化はありましたか。

学習内容の理解度や知識の定着度に関して、「理解度が向上した」18.0%に対し、「低下した」が26.3%であり、やや否定的回答が上回った。「変わらない」が55.7%と過半を占めた。デジタルに慣れた世代であり、電子教科書にもスムーズに馴染むかと思われたが、高校までは教科書も紙ベースで学習していたため、このような結果となったと考える。利便性と理解度のバランスを考慮する必要がある。

1学年		
1. よく理解できるようになった	1	1.6%
2. やや理解できるようになった	10	16.4%
3. 変わらない	34	55.7%
4. 理解しにくくなった	12	19.7%
5. 非常に理解しにくくなった	4	6.6%
計	61	100.0%

問40. 電子教科書の使用にあたり、トラブルや困ったことがあれば具体的に教えてください

電子教科書の使用についてのトラブル等に関する自由記述では、Wi-Fi接続の不安定さや操作自体の不慣れ・使用感の悪さについての不満が多く寄せられた。通信環境は十分対応しているが、デジタル故突発の不具合が出てしまっている。また、講義の進み方とタブレットへの書き込みの遅さがあるため、教員も考慮すべきと考える。

- ・ログインができなくて見れない
- ・ログインできないときがある
- ・wifiがきれる
- ・紙の教科書のほうが勉強しやすい
- ・パソコンを買う時はモニターからかけるものにしてほしいという指示がなかったにもかかわらず授業内で電子教科書に書き込む機会が多く全く使えていない
- ・なかなか開かないときがある
- ・医学書員のeテキストはパソコンかタブレットどっちかにしか入れられないので不便
- ・教科書に書き込むのに時間がかかり、先生のスピードについていけない。
- ・書き込みがしづらい
- ・もしもiPadが壊れてしまった時に電子教科書などは消えてしまうのか心配
- ・パソコン壊れた時に授業に参加出来ない
- ・タッチペンでメモをしている時に手も反応して書きにくい
- ・急にログアウトされていて使いたい時に見ることができなかった
- ・紙媒体の方が勉強しやすく、書き込みがしやすいため、電子がいい人とアナログがいい人と選べるようにしてほしい。
- パスワードがわからず入らない日がある

問41. 電子教科書の使用にあたり、追加してほしい機能や改善してほしい点があれば教えてください。
 電子教科書の使用にあたり、追加してほしい機能や改善してほしい点に関する自由記述では、「紙との併用選択制」「タッチペンの反応改善」「書き込み補正」「カラーペン機能追加」などの声が寄せられた。電子教科書の機能については要望を出版社に伝えることはできるので大学としてやるべきである。紙との併用は出版社からできないと言われていたので、これには対応できないと考える。

- ・廃止
- ・紙の方が使いやすい
- ・書いた文字を補正する機能が欲しい
- ・紙の教科書か、電子教科書か選べるようにしてほしい(教科ごとに)
- ・タッチペンで書いている時はタッチペンのみに反応するようになって欲しい
- ・ペンや蛍光ペンの色が選べるようにしてほしい、ノートページを追加できるようにして書き込む場所を増やしてほしい

問42. 授業評価等のアンケートについて、どのような形で実施するのがよろしいですか。

授業評価等のアンケートについて、どのような形で実施するのが良いかに関して、「Googleフォーム」(オンライン)が59.5%で最多、「紙配付」9.9%、「学務システム」6.9%、「どれでもよい」23.7%であった。現在は紙による回答で実施しているが、多くの学生はオンラインを希望する結果となった。今後は極力オンラインでのアンケート調査に移行することが望ましいと考える。

	1学年		2学年		3学年		4学年		全体	
1. 紙で配付	6	9.8%	2	3.2%	10	14.3%	9	11.3%	27	9.9%
2. Googleフォーム	39	63.9%	43	68.3%	34	48.6%	47	58.8%	163	59.5%
3. 学務システムのアンケート機能	3	4.9%	6	9.5%	5	7.1%	5	6.3%	19	6.9%
4. どれでもよい	13	21.3%	12	19.0%	21	30.0%	19	23.8%	65	23.7%
計	61	100.0%	63	100.0%	70	100.0%	80	100.0%	274	100.0%

問43. その他、大学全体に対して、意見・要望等があれば自由に記入してください。

[1年生]

- ・紙の教科書がいいと思う。メモのしやすさと、勉強に集中しやすくなるとおもうから
- ・ATMをつけて欲しい 学食を安くして欲しい
- ・紙媒体の教科書がいい

[2年生]

- ・学費を安くしてほしい
- ・教室に空気清浄機が欲しい。先生による成績評価のバラツキが嫌だ。
- ・学生便覧は電子ではなく冊子で配布してほしい

[4年生]

- ・先生の好き嫌いが激しいので先生側を評価するものも必要だと思う
- ・病院の学生休憩室(5北)に電気ポットが欲しいです
- ・学食の種類を増やす菓子パンやお菓子の自販機を置く実習時置戸へのバスを学校から出す大学内(廊下)の温度調節
- ・学務システムが夜間使用できないのが不便。夜、自習室で学習しているとき早い時間に暖房が切れてしまうので冬は寒い。
- ・トイレからペーパータオルもジェットタオルも撤去されたことが不便に感じます。
- ・学食のメニューを増やして欲しい
- ・スマ学使いづらいです。特に履修登録。以前の学務システムからの方が簡単だし、確実に登録できたかが分かりやすかったです。
- ・学務システムが更新されたことのみではなく、おおまかな連絡内容についてもXの更新時に記載して欲しい
- ・ペーパータオルもハンドドライヤーのないトイレは不便なのでどちらかは設置してほしい
- ・実習を通して、同じ領域でも先生によって毎日出す課題やレポートの量に違いがあった。友人と話していて、同じ実習を受けていてもやらなければいけないことが違うとなると不公平だと感じた。
- また、特に老年の実習で置戸に行く場合は7時すぐの柏葉高校のバス停まで行く必要があるが、学校で朝早くから大量の印刷もしなくてはならない為、6時30分からしか学校に入らず毎日走ってバス停まで行くのは大変だった。また、バスの運行によっては北見駅からの乗り換えが1分しかないなど常に重い荷物を持ってバス停からターミナルまで走るのが大変だった。みんな何とか間に合っているのだとは思いますが朝の苦勞をもう少し減らしたい。
- ・履修登録後に、後から履修登録していない人が聴講できるようになっているのが、不公平に感じます。
- 履修登録している人がいるから開講できるのに、テストを受けずに聴講だけできるのはなぜでしょうか？そのような状況でしたら、みんなテストは受けずに聴講だけしたいと考えてしまいます。
- ・学務システムの一部がアプリになって便利などころはありますがアプリ上で添付ファイルが確認できないので通知の確認に関しては実質以前と変わっていないと感じる部分も多いです。
- また、学内にWi-Fiができたのは喜ばしいことですが、接続が不安定な時が多いこと、公式なWi-Fiが繋がらずオリエンテーション時のみの仕様とされていたWi-Fiを継続使用している学生がいることがやや課題だと思います。学務課に行かなければ改善されないのは面倒だと諦めている学生が多数いるのが現状です。
- 学内で講義を受けている際に他学年の音が下の階から響き授業が妨げられることも多いように感じます。
- また、トレーニング室が講義室の真上に変更されたことにより、講義中にトレーニング器具を使用した場合下の講義室に音が響き、頭が痛くなったり、集中できないという事態が発生しているため可能であれば次年度は戻した方が良いのではないかと思います。